

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析について

秦野市教育委員会

平成28年4月19日に全国学力・学習状況調査が実施され、その結果が秦野市教育委員会に送付されました。

本市では、調査結果を児童・生徒への日常の指導に生かすために、「全国学力・学習状況調査結果分析・活用検討委員会」を組織し、分析を行ってまいりました。本委員会では、今回の調査結果を分析し、今後の指導において何を大切にすべきかをまとめ、各学校での指導の充実や改善につなげていくことにしていきます。

今後とも、児童・生徒が確かな学力を身につけていくことができるよう、これまで同様、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査対象

市内小学校13校 小学6年生 市内中学校9校 中学3年生

3. 調査の内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学）

・主として「知識」に関するA問題 ・主として「活用」に関するB問題

②学習意欲や生活習慣等に関する児童・生徒質問紙調査及び学校質問紙調査

4. 調査結果の概要

①調査の結果【教科に関する調査の平均正答率】

小学校国語	【知識】	【活用】	中学校国語	【知識】	【活用】
秦野市(%)	68.0	54.8	秦野市(%)	74.2	62.7
神奈川県(%)	70.3	58.2	神奈川県(%)	75.4	67.0
全国(%)	72.9	57.8	全国(%)	75.6	66.5
小学校算数	【知識】	【活用】	中学校数学	【知識】	【活用】
秦野市(%)	72.4	44.1	秦野市(%)	59.0	40.2
神奈川県(%)	76.6	47.3	神奈川県(%)	61.9	44.3
全国(%)	77.6	47.2	全国(%)	62.2	44.1

②調査の結果【児童・生徒質問紙に関する調査より一部抜粋】

【学習意欲】	小学校 国語が好き	小学校 算数が好き	中学校 国語が好き	中学校 数学が好き
秦野市(%)	57.9	62.0	60.7	57.4
神奈川県(%)	60.2	66.2	61.6	57.7
全国(%)	58.3	66.0	59.8	56.0

※調査問題の内容等詳細につきましては、文部科学省のホームページをご参照ください。

※本調査結果は、学力の特定の一部分であることに留意して捉えておりますが、各教科で課題と見られる部分については分析をし、指導の工夫や改善等によって児童・生徒の力を伸ばしていく必要があると考えております。次ページ以降で分析結果の詳細について記載しております。

「教科及び児童質問紙に関する調査」結果の分析及び手だて（小学校）

○小学校国語科

全国とほぼ同様（全国の平均正答率の±5%の範囲内）の結果となっています。これは各校での言語活動を重視した授業改善が進められたことが成果となって表れてきているものと考えます。質問紙においても「国語の勉強は大切」「国語は将来役に立つ」と8割以上の児童が回答していることや、「段落ごとの内容を理解しながら読む」「読書が好き」の回答の割合が増えていることから関連付けられます。

・「知識」に関する調査

「読むこと」

- ・目的に応じて、図と表とを関係付けて読むことが概ねできています。
- ・登場人像について、複数の叙述を基にしてとらえることにやや課題が見られます。

「話すこと・聞くこと」

- ・目的に応じて、収集した情報を関係付けながら話すことにやや課題が見られます。

「書くこと」

- ・書き手の表現をよりよくするための助言を考えることにやや課題が見られます。

「伝統的な言語文化」

- ・漢字を正しく読むこと「貯金（ちょきん）」が概ねできています。
- ・漢字を書いたり、ローマ字を読んだり書いたりすることに課題が見られます。

「知識」に関する手だて

- ・目的に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合いを進めるには、日常生活の中で考えたことについて、本や文章で調べたり、インタビューやアンケートを行ったりする時間を保障しつつ自分なりに幅広く情報を集めることが必要です。そのためには、メモやノートの内容を比較したり分類したりして、自分の考えの根拠を明確にすることができるように指導することが大切です。
- ・漢字やローマ字の習熟のためには、身のまわりの新聞や情報誌等の中に習った漢字やローマ字を探す活動が考えられます。また、国語科に限らず、各教科等の調べ学習の中でも積極的に辞書を利用することや、都道府県名等の固有名詞をローマ字で書くことも効果的です。

・「活用」に関する調査

「読むこと」

- ・自分の考えを明確にしながら読むことにやや課題が見られます。

「話すこと・聞くこと」

- ・話し手の意図を聞き、話に沿って質問することにやや課題が見られます。

「書くこと」

- ・目的や意図に応じて、表を基に自分の考えを書くことにやや課題が見られます。

「活用」に関する手だて

- ・図表やグラフを用いて自分の考えを明確にして書く際には、観察したり、実験したり調査等を行ったりして得られた結果の事実を図表やグラフで示し、自分がどのように読み取って分析したのか、そこからどのような考えをもったのかを具体的に記述することが大切です。その際、児童の実態に合った手本の提示があるとよいです。また、自分の立場をはっきりさせて意見を書く機会を継続して設けることが効果的です。
- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むためには、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握することが大切です。その際、自分の知識や経験、考えなど関係付けながら読むことが重要です。さらに、図書館や学級文庫等を積極的に活用できるような環境整備や人気のあるシリーズものを蔵書として取り扱う等、読む楽しさ味合わせる機会を継続することも大切です。

○小学校算数科

「知識」に関する調査にやや課題があるものの、「活用」に関する調査は全国とほぼ同様の結果となっています。これは各校での言語活動を重視した授業改善が進められたことが成果となって表れてきているものと考えます。質問紙においても「算数の勉強は大切」「算数は将来役に立つ」と8割以上の児童が回答していることや、「算数が好き」「もっと簡単に解く方法がないか考える」の回答の割合が増えていることから関連付けられます。

・「知識」に関する調査

「数と計算」

- ・不等号を使った大小関係や表し方は概ねできています。
- ・小数の仕組みと数の相対的な大きさの把握にやや課題が見られます。
- ・整数、小数及び分数の計算の意味の理解に課題が見られます。

「量と測定」

- ・図と式を関連付けて、単位量当たりの大きさの求め方に課題が見られます。
- ・三角形の底辺と高さの關係に課題が見られます。

「図形」

- ・図形の構成要素に着目して、図形を自分で構成することに課題が見られます。
- ・立方体や直方体の、面と面の平行及び垂直の關係の理解に課題が見られます。

「数量關係」

- ・示された場面を読み取り、全体の人数を立式することに課題が見られます。
- ・百分率で表す場面で、基準量と比較量の關係を捉えることに課題が見られます。

「知識」に関する手だて

- ・割合の關係を正しく捉えるために数直線等を用いて指導することが考えられます。特に何が基準量に当たっているかを意識させることが大切です。
- ・5年生までに身につけておくべき内容の中で、課題が見られる領域がありますので、基礎基本の定着に向けた丁寧な取り組みが必要です。例えば、協働的な学び等児童がより意欲的に取組める授業方法を積極的に取り入れたり、本市が作成している「領域別フリプリ」や「わくわく学習プリント集」、県教育委員会が作成している「課題解決教材」等を活用したりすることも有効です。また、タブレットパソコンなどのICTを活用し学習を効果的に進めることも有効です。

・「活用」に関する調査

「数と計算」

- ・示された条件を基に、同じきまりが成り立つか調べることは概ねできています。
- ・式の数値の意味を解釈し、言葉等で記述することにやや課題が見られます。
- ・長方形から、1辺9cmの正方形を24個かくことができる理由を記述することに課題が見られます。

「量と測定」

- ・示された除法の式と並べてできた形を関連付け、角の大きさを基に、式の意味を論理的に記述することにやや課題が見られます。

「図形」

- ・正方形に内接する円をかくことについてやや課題が見られます。

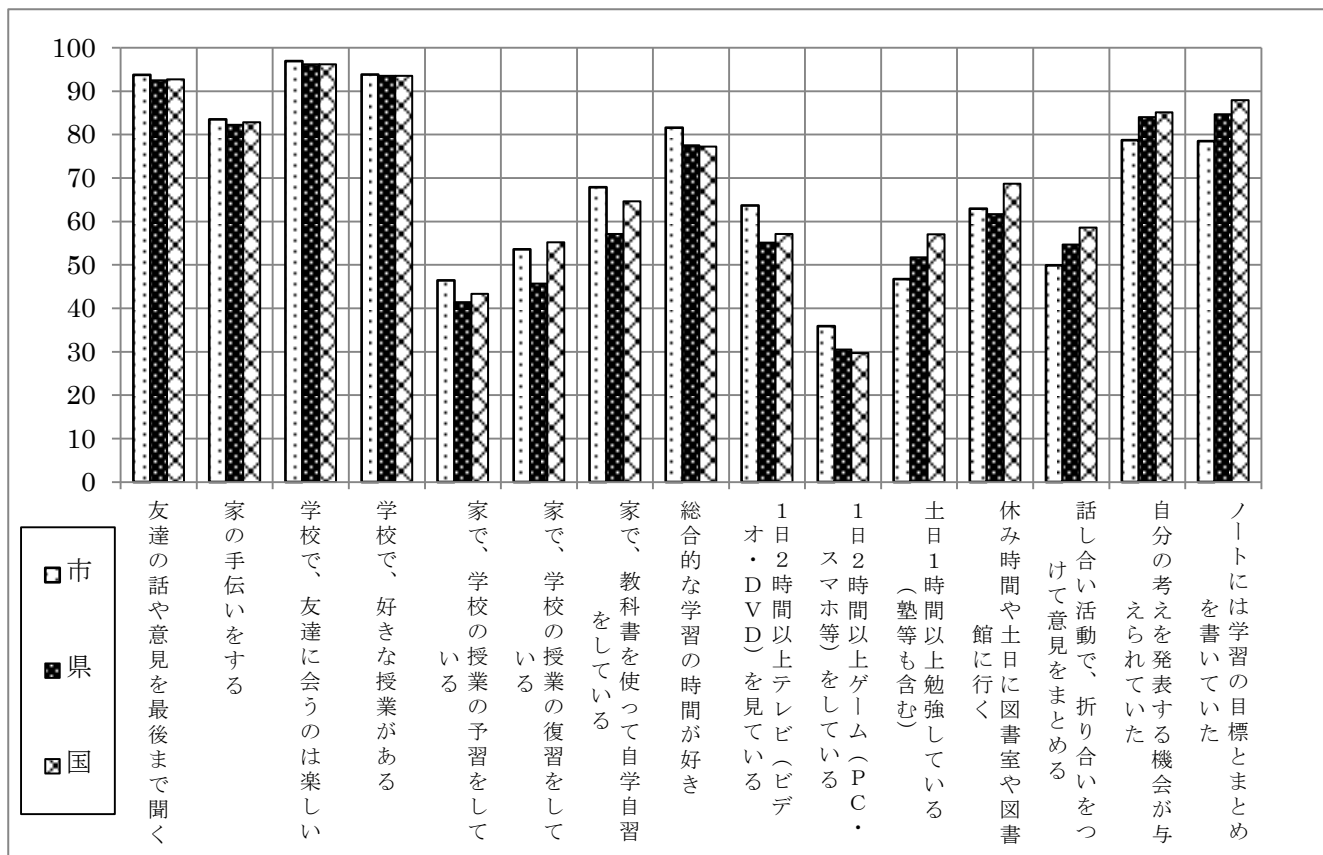
「数量關係」

- ・グラフから読み取ったことを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述することにやや課題が見られます。

「活用」に関する手だて

- ・目的に応じて作図する場面においては、問題の解決に必要な図形の性質を想起できるようにすることが大切です。その際、作図経験を十分に行うことができる時間を設けることが大切です。
- ・各領域に関する内容が複合的に出題されるので、それぞれの領域の基礎基本の定着を図った上で、応用問題の練習の機会を増やしていくことがよいです。また、記述問題に関しては、根拠を明らかにして筋道を立てて考え、その考えを言葉や式、図、表、グラフなどを用いて表現し、伝え合うことを繰り返して取り組むことも有効です。

○小学校質問紙



- ・学校で友達と過ごすことを楽しむ姿や、友達の話や意見を最後まで聞く姿は、やや高い割合を示しています。引き続き、楽しい学校生活、分かる授業をめざした授業改善をしていくことが望まれます。
- ・休日の学習時間は少ないものの、家の手伝いをするなど家族の一員としての意識をもち、役割を果たしています。家庭での充足感から、予習や復習をしたり、自学自習に取り組んだりする姿があり学習意欲につながっていることが伺えます。今後も家庭と連携する中で、児童が家庭で取り組んできた課題を把握したり、朱書きで返したりして継続した取り組みになるよう支援していくことが必要です。一方で地域の行事に参加している割合は低いことから、家庭で多様な休日の過ごし方を話題にできるとよいです。さらにテレビ、ゲーム等は、家庭内におけるルールづくりも含め、保護者自身の意識も高められるよう家庭と学校との連携を図るとともに、児童自身の意識を変えていくことが早急に必要です。
- ・話し合い活動等で折り合いをつけて意見をまとめたり、自分の考えを発表したりすることができるようにするためには、児童の思いを受け止め、折り合いをつけながら課題の設定や表現に至る学習を児童自身が主体的に進めているという意識がもてるような授業を展開する必要があります。また、児童が、問題解決する過程を自分ごととして経験することにより、学習意欲や自己肯定感を高めることにつながると考えられます。自分の考えを進んで表出するためにも、日頃から温かな聞き方や優しい話し方を定着させることが大切です。
- ・授業の始めに目標を示すことや最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたり、ノートに学習の目標とまとめを書くようにしたりすることは、経年の変化では割合が高くなっているものの、全国と比較すると低い割合です。引き続き、意識して習慣化できるようにしていきたいです。そのために、板書を活用した学習のめあてや振り返りを確認させる展開を設定することも考えられます。
- ・国語科における物語教材の出合わせ方、朝読書の励行、図書館司書による環境整備や読み聞かせボランティアの効果により、多くの児童が本を読むことにつながってきています。今後、さらに本を読む楽しさを実感でき、中学生になっても継続できるようにしていく必要があります。そのためには、いろいろな種類の情報に触れる機会や視覚、聴覚的媒体からも読書につなげていくことも効果的です。

「教科及び生徒質問紙に関する調査」結果の分析及び手だて（中学校）

○中学校国語科

全国とほぼ同様（全国の平均正答率の±5%の範囲内）の結果となっています。これは各校での言語活動を重視した授業改善が進められたことが成果となって表れてきているものと考えます。質問紙においても「国語はよくわかる」「段落ごとの内容を理解しながら読む」について全国より高い割合で回答していることや、「自分の考えを話したり書いたりする」「文章は最後まで書こうと努力した」の回答の割合が増えていることから関連付けられます。

・「知識」に関する調査

「読むこと」

- ・文章の構成や展開について自分の考えをもつことが概ねできています。
- ・登場人物の言動を考え、内容を理解することが概ねできています。

「話すこと・聞くこと」

- ・互いの発言を検討して自分の考えを広げることが概ねできています。
- ・相手の話を注意して聞き、自分の考えと比較することにやや課題が見られる。

「書くこと」

- ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことにやや課題が見られます。

「伝統的な言語文化」

- ・辞書を活用し、漢字が表している意味を正しくとらえることができています。
- ・文脈に即して漢字を正しく書くことにやや課題が見られます。
- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことに課題が見られます。

「知識」に関する手だて

- ・相手の意見を聞くということは、自分の考えをよりよく変容していくために必要な行為であることに気づかせるとともに、言葉の特徴やきまりに関する学習と関連させ、語感を磨き語彙を豊かにする指導も大切です。その際、本市が作成している「楽しく話そう『話す・聞く』力を伸ばすために」を活用することも有効です。
- ・古典の学習の際には、特有のリズムを味わい、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、興味・関心を高めることが重要です。その際、作者の思いを理解したり、音楽科で歌唱したりして、教科を横断した学習活動も有効です。

・「活用」に関する調査

「読むこと」

- ・目的に応じて文章を要約することに課題が見られます。

「書くこと」

- ・根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られます。

「活用」に関する手だて

- ・根拠を明確にして自分の考えを書くためには、概ね150字から200字で解釈した内容と自分の考えをまとめて書くことが大切です。その際、生徒に内容を推敲する十分な時間を保障し、誤字脱字のチェックを含めて丁寧に添削をすることが重要です。また、本市が作成している「文章の鉄人～今の思いを言葉にしよう～」を国語の時間だけでなく、学級活動や総合的な学習の時間、朝の時間等でも活用し、「書くこと」の抵抗感をなくすことが効果的です。さらに、文の書き出しを例示したり、国立教育政策研究所教育課程研究センターが作成している「全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイデア例」を参考にしたりすることも有効です。
- ・目的に応じて文章を要約するには、目的や必要に応じて情報を選択して整理することが大切です。そのため、内容のまとまりをとらえるとともに中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、筆者の主張を理解することが重要です。例えば、意図的にカード等を活用して情報を整理し、要約する学習活動も考えられます。引き続き、文章を要約する際には、キーワード等に注目しながら読み、段落相互の関係や構成を確認するように指導することが大切です。また、図書館や新聞等を活用し、様々な内容や形式の文章を積極的に読んでいく活動も重要です。

○中学校数学科

全国とほぼ同様の結果となっています。これは各校での言語活動を重視した授業改善が進められたことが成果となって表れてきているものと考えます。質問紙においても「数学は好き」「解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」について全国より高い割合で回答していることや、「解き方や考え方をノートに書く」の回答の割合が増えていることから関連付けられます。

・「知識」に関する調査

「数と式」

- ・数の範囲の拡張や、自然数の概念を理解することができていますが、さらに理解を深める必要があります。
- ・等式の性質を基にして、一元一次方程式を解くことにやや課題が見られます。

「図形」

- ・命題の仮定と結論や、命題の逆の概念を概ね理解しています。
- ・対称移動について理解し、図形の移動の見方に課題が見られます。
- ・空間における2直線のねじれの位置の関係の理解に課題が見られます。

「関数」

- ・具体的な事象から2つの数量の関係を一次関数の式に表すことが概ねできています。
- ・比例における x の値が増えた時、 y の増加量を求めることが概ねできていますが、さらに理解を深める必要があります。
- ・反比例のグラフと対応する2つの値から、式を求めることに課題が見られます。

「資料の活用」

- ・測定値には誤差があり、近似値と誤差の意味の理解について課題が見られます。

「知識」に関する手だて

- ・反比例のグラフでは、 x 軸と y 軸のそれぞれに限りなく近づくが交わらない特徴を確認しつつ、グラフの特徴と式を関連付けて考察し、立式できるようにすることが大切です。
- ・2学年の領域や3学年で復習した内容は全国とほぼ同じ傾向か、概ねできています。一方で1学年の領域は、昨年同様課題が見られます。基礎基本の定着を図るためには、本市が作成している「領域別フリプリ」や「わくわく学習プリント集」、県教育委員会が作成している「課題解決教材」等を活用することが有効です。また新しい単元に入るときには、1学年で学習した内容を復習することも効果的です。

・「活用」に関する調査

「数と式」

- ・一次方程式を活用し、式に数を代入し具体的な場面に結びつけることに課題が見られます。
- ・計算を実際の場面と結びつけるようにして、活用することに課題が見られます。

「図形」

- ・三角形の合同条件を理解し、論理的に表現することが概ねできていますが、さらに理解を深める必要があります。

「関数」

- ・一次関数の特徴を表から理解することが概ねできています。
- ・反比例の特徴を捉え、変化や対応の様子を表現することに課題が見られます。

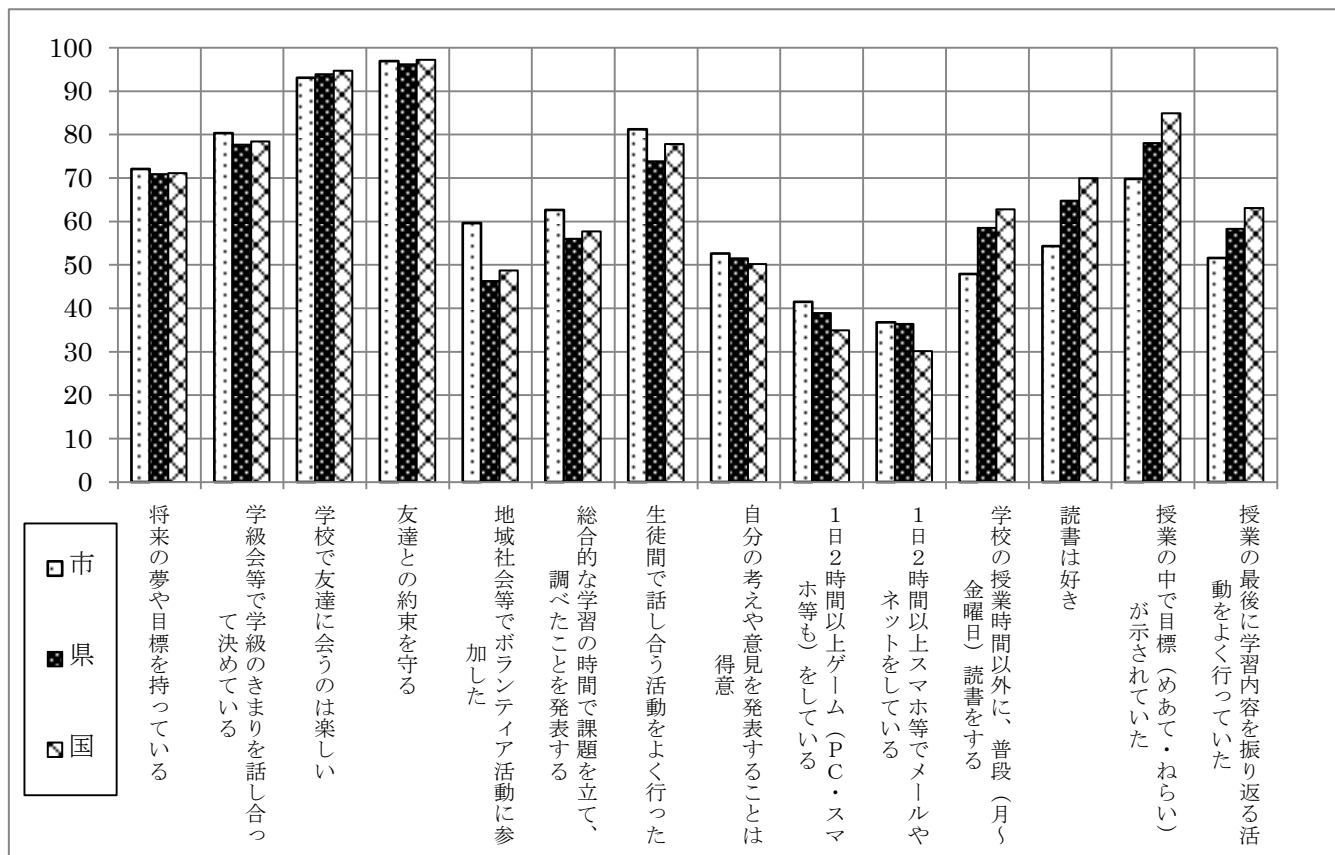
「資料の活用」

- ・数量の関係を捉え説明することが概ねできていますが、さらに理解を深める必要があります。
- ・相対度数の概念の理解し、値を求めることに課題が見られます。

「活用」に関する手だて

- ・相対度数の必要性和意味の理解をするために、目的に応じて資料を整理し、資料の傾向を読み取り、解決の構想を立てたり、日常生活や社会の不確定な事象における問題を解決したりする活動を取り入れていくことが大切です。
- ・学習指導要領解説で示されている「既習の数学を基にして、数や図形の性質を見だし、発展させる活動」「日常生活で数学を利用する活動」「数学的な表現を用いて、根拠を明らかにして筋道を立てて説明し伝え合う活動」のような数学的活動に取り組む機会を増やし、主体的に思考力・判断力・表現力を高め、数学を学ぶことの楽しさや意義を実感できるようにしていく必要があります。また、教科書の数学広場やマスナビブックを活用することも有効です。

○中学校質問紙



- ・将来への夢や目標に向かって、他者とかかわり、話し合いによって自主的に組み立てたルールに従って集団生活を送ること、その生活を通して規範意識等が伸長していることについて全国同様またはそれ以上に高い割合を示しており、いじめ問題の防止等の観点からも大切な特長と言えます。
- ・地域でのボランティア活動への参加について全国より高い割合になっています。小中一貫教育の継続的な取り組み等によって地域とのつながりを大切にする心情が醸成されていると考えられます。
- ・総合的な学習において課題解決的な学習に取り組んできたことや、授業中に生徒間で話し合う活動に取り組んだと答えた生徒の割合が全国より高いです。各学校で言語活動を意識し、生徒が主体的に学習活動に取り組んできていることが伺えます。また自分の考えや意見を発表することが得意と回答する生徒も全国より高いです。クロス集計によると、これらの質問に肯定的な回答をした生徒の正答率が高い傾向にあるので、今後も小中の学びの連続性を意識し、生徒の主体的な学習を促すための工夫を継続していく必要があります。
- ・普段ゲームやインターネット等を利用していると答えた生徒の割合が全国よりも高いです。インターネット等でニュースを見ると答えた生徒も多いことから一概に課題と言えない面もありますが、正しい使い方を理解していないと、学習や睡眠時間に悪影響を与え、事件・事故に巻き込まれる危険性もあるので、ネットモラルや生活習慣についての指導を小中一貫教育の中で継続していく必要があると考えます。
- ・半数以上の生徒が全く読書をしていません。また、読書が好きと答えた生徒の割合が全国を下回る傾向は経年変化を見ても続いています。クロス集計によると読書について肯定的な回答をする生徒の正答率が高い傾向が見られますので、魅力的な本との出会いを確保し、様々な媒体を活用して読書のきっかけになる働きかけを進める必要があります。
- ・授業中に目標やめあてについての指導を受けてきたと答えた生徒の割合が全国より低いです。これまでも課題として意識をもって取り組んできていることから、経年変化を見ると肯定的な回答をする生徒の割合が増えてきており、学校での継続的な取り組みが効果を上げてきているものと考えられます。引き続き、小中で学びのスタイルをスタンダード化することや、目標やめあて・振り返りの提示をする際に内容をより具体的に絞った形にする等の工夫が必要であります。さらに、分かるまで教えてもらえたと回答した生徒の割合も全国よりも低いことから、つけたい力が生徒に対して明確に伝わる授業の展開になるよう取り組んでいく必要があります。